

学年通信

2026年
06月08日

仲間

～ 最終章 俺たちの背中を見ろ ～

卒業まで141日

第013号

文責 稲葉浩志

思い出に残った「奇跡」の修学旅行

6月2日～4日の仲間学年最後の宿泊学習がありました。出発数日前に台風6号『チャンミー』が発生し、「修学旅行がどうなるんだろう…」という不安がよぎったと思います。6月の台風は基本的には日本列島の方には来ないという情報もありましたが、まさかの急カーブで愛知→東京へ向かってくるという進路になりました。学年の先生にすごい力をもった「雨男」と「雨女」が呼び寄せているのか!?「チャンミー」は韓国語で「バラ」という意味があるから「情熱」が呼び寄せたのか!?いろいろな憶測が流れましたね。でも、先生たち全員が「この学年なら大丈夫」と思っていました。これまでの経験から変更に対応してくれる子たちだと信じていたからです。

「台風の中の修学旅行」と聞くと、残念だといわれるかもしれませんが、「晴れの修学旅行」よりも記憶に深く刻まれると思います。成人式でこの仲間と再会したとき、将来自分の子どもに話をするとき「修学旅行が台風だったんだよ!」の方が覚えていると思います。日程変更で残念な気持ちになったかもしれませんが、台風のおかげで思い出に刻まれることになったのかもしれません。台風のおかげと言えば「奇跡のディズニーシー」だと先生は思っています。信じられないくらいの待ち時間でアトラクションを堪能することができました。次の日の帰りのバスで天気が良かったらどうなったのかな?と思い、待ち時間のアプリを確認すると…「160分～200分」のアトラクションが4つか5つくらいありました。昨日20分待ちだったのに…と衝撃を受けました。これも台風のおかげなのかもしれないし、これまでのみんなの頑張りへの神様からのご褒美なのかもしれないですね。

友だちや家族との旅行なら、「また行こうね」と言えたのかもしれないですが、この仲間との旅行は一生で一度きりです。その旅行が思い出に溢れた旅行になったのは本当に良かったと思っています。学年写真の時は雨が降らない、ディズニーが中止にならずに待ち時間が短くなる、最終日は最高の天候に恵まれるということがあることに驚きました。先生は「奇跡の修学旅行」と呼びたいなと思いました。たくさん思い出をありがとう。

感謝の想いを忘れてはいけない修学旅行

この「奇跡の修学旅行」の裏にはたくさんの「感謝」に溢れていることを忘れてはいけません。まずは、2年生の終わりから「修学旅行実行委員」たちが準備を進めてくれていたことです。「ジ。～自由と責任について～」というスローガンを掲げて「みんなに楽しんでもらいたい」「思い出に残るものにしてもらいたい」という思いをもって準備を進めてくれました。

「台風」の発生に伴い多くの心配が生まれました。きっと保護者の方たちも安全の面でたくさんの心配があったと思います。しかし、修学旅行という思い出に残る時間を仲間と過ごしてもらいたいという思いからみんなを送り出してくれたと思います。そんな気持ちにもしっかりと「感謝」しなくてはならないと思います。きっと帰ってきたみんなの笑顔や疲れ切った表情に「行けてよかった」と思ってくれたと思います。また、校長先生、担任の先生方、旅行社の方、ホテルの人たちへの感謝も忘れてはいけません。担任の先生たちは夜遅くまで「どうしたら少しでもみんなに日程通りに過ごしてもらえるのか」と知恵を絞ってくれました。旅行社やホテルの方たちも少しでも協力できることがあれば動いてくれました。そんないろいろな人たちが裏で動いてくれたからこそディズニーへ行くことができたり、無事に修学旅行を終えることができたりしたことも絶対に忘れてはいけません。

そもそも「修学旅行」はいけた当たり前のものではなく、たくさんの人たちの支えがあって成り立っているものだということを知っててください。そして今年に関しては不測の事態の中で行くことができた「奇跡の修学旅行」です。なので、普通以上に多くの支えてくださった人たちがいることをしっかりと覚えておいて下さい。

修学旅行をこれから

修学旅行を通じて学び、感じてほしいことがあります。まずは「成長」を感じた部分です。男子の2日目の朝食で起床が遅れた関係で予定よりも「15分」くらい遅れてしまいました。3日目はどうなるかな?とっていると「先生!〇〇号室が心配なので起こしに行ってもいいですか?」と申し出てくる子たちがいました。仲間をフォローしようとする姿はいいことだなと感じました。

これらにつなげてほしいこととしては、「先を見通す力」です。1日目の班別活動でホテルへの到着の際に駆け込んで来る人たちがいたことです。今までなら「間に合わせるために急いでいたのはいいこと」でしたが、「間に合うための判断ができなかったのか」という点に改善を見つけられるかです。遅れそうだから「走る」というのは、目の前で起きていることにどうにか対応しているだけです。それよりも前もって残りの時間を計算して行動することの方がこれから必要になる力だと思います。気候や交通状況によって不測の事態が起きたからこそ「先を見通す力」で対応できたらさらに良かったと思います。

多くの人たちに支えられた「奇跡の修学旅行」だからこそ、これからのみんなの「背中」が大切になると思います。みんなの卒業する姿を見られるのは一部の人かもしれませんが、でも、誰が見ても「素晴らしい背中」で卒業していけるようにこれからの日々を大切にしていましょ。みんなの成長を楽しみにしています。

